

「教員免許状更新講習」

★事業の概要★

事業のねらい

体験活動の意義や、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な事項について理解し、教育活動に体験活動を取り入れる方法について講義や実習を通して習得する。

期

日

平成 27 年 1 月 10 日（土）～ 1 月 12 日（月）

会

場

国立大雪青少年交流の家

対象者

小学校教諭（平成 27 年 3 月 31 日及び平成 28 年 3 月 31 日が終了確認期限の者）

参加者数：参加募集人数

9 名：20 名

講

師

宮川 八岐 氏（國學大学 教授）

笠井 稔雄 氏（北海道教育大学旭川校 教授）

濱谷 弘志 氏（北海道教育大学岩見沢校 准教授）

濱中 昌志 氏（北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課 主幹）

阿部 豊 氏（国立大雪青少年交流の家 所長）

国立大雪青少年交流の家職員

日

程

1/10 (土)	12:30～13:00 受付	13:00 開講式	13:30～15:30 講義 「学校教育における体験活動の意義と学習指導要領」	15:40～17:10 講義 「青少年教育施設における体験活動の実際」	夕食	18:10～19:40 実習 「体験活動を通した望ましい人間関係づくり」	19:40～22:30 入浴 就寝
1/11 (日)	9:00～12:30 実習 「冬季スポーツの実際」	昼食	13:30～17:30 講義・実習 「冬季間の体験活動と安全管理」		夕食	18:30～20:30 講義・実習 「野外での食事」	20:30～22:30 入浴 就寝
1/12 (月)	10:00～12:00 講義 「今日的な教育課題」	昼食	13:10～14:40 履修認定試験 択一問題・小論文	14:45 閉講式	15:00 解散		

★プログラム紹介★



講義「学校教育における体験活動の意義と学習指導要領」

今、学校現場で求められている体験活動の具体例を、学習指導要領に位置づけられた長期宿泊の取組例をとおして学んだ。



講義「青少年教育施設における体験活動の実際」

子供の現状を調査・分析したデータをもとに、体験活動の必要性と青少年教育施設の役割を学んだ。



実習「体験活動を通じた望ましい人間関係づくり」

体験活動をとおした望ましい人間関係づくりについて、コミュニケーションを意識した指導法を用いて体験的に学んだ。



実習「冬季スポーツの実際」

積雪寒冷地で楽しむことのできる「テレマーカスキー」「歩くスキー」「スノーボード」「スノーシュー」から、参加者が選択し、体験した。



講義・実習「冬季間の体験活動と安全管理」

冬のケガや事故例からリスクマネジメントの考え方を学んだ。その後、屋外で緊急避難用の雪洞作りに取り組んだ。



協議「今日的な教育課題」

「子供の貧困」をテーマに、貧困によって子供たちの将来が左右されないための学校の役割や可能性について学んだ。

企画・運営のポイント

交流の家の自然環境を最大限に生かした自然体験活動プログラムを設定し、受講者が実際に学校現場で活用しやすいプログラムを展開した。また、体験活動の意義や必要性に重点を置き、学習指導要領に位置づけられた体験活動や学校現場の課題を取り上げることで、プログラム全体に統一感を持たせた。

事業を終えて(感想と課題)

青少年教育施設を活用した体験活動の特色を受講生に再認識してもらうことができた。

冬季の開催は交流の家の持つ魅力を生かせるプログラムを提供できるが、申請手続き上の課題から、終了年度の対象者は申込みできない。

今後の方向性

今後も交流の家のフィールドを生かした体験活動プログラムを企画する。開催時期を夏季にすることで、受講者数の確保を図る。